

駿河竹千筋細工

SURUGA TAKESENSUJI ZAIKU

一人の職人がその技を磨き上げて、竹のこを一本一本組み、手組にて作品を完成します。しつとりとした音から繊細な曲線は、指先で滑らかに滑ります。漆の自然発色の華やかな器具やインテリアとして、暮らしを彩りたやわらかな時間をかもも出てくれます。

手組げあし(漆器) 高さ 120,000円
(静岡竹工芸振興会)



静岡の伝統工芸品

静岡県は東西に長い地形を持っており、ご家柄の通り東海道五十三次といわれる駅数の多くが静岡県に存在しました。これは東西交流の要衝として古くから文人、墨客が静岡を訪れ、その地に伝統工芸品の萌芽を広めたということにつながります。

静岡には実に多彩な伝統工芸品があり、機織で織やかな器類・耀入形・蒔絵・漆器、自然の風合を生かした織り・染物、日常雑貨の価値を持つ洗練された美しさを有する陶器・漆物、各種木工芸品等、それぞれが伝統技法によって歴史も刻々と受け継がれております。



静岡県



ふじのくに 静岡

脈々と受け継がれてきた 静岡の工芸

江戸時代の頃、静岡県は駿州・遠州・豆州といわれた個性ある地域にて構成されました。駿州の中核都市は駿府といわれ、今の静岡市、遠州のそれは浜松市、豆州では現在の沼津市付近に当たります。

当時、それぞれの地域では個性ある地域文化を花開かせていました。例えば、駿州では、徳川家康隠居地である駿府城に隣接する浅間神社造宮に際し、優れた名工・匠士を全国各地から招聘し、その優れた技術が今日の静岡市の伝統工芸のルーツになったと云われています。また、浜松を中心とした遠州では、昔から織物産地として有名であり、その中から優れた伝統工芸織りも誕生しました。

現在、静岡県は近代工業においても、自動車、楽器、家具、精密機械などの地場産業を発達させており、その温床となつたのは、こうした伝統工芸であったというのは、あまり知られることはありません。

例えば、自動車製造は静岡県の有力な地場産業ですが、そのルーツは伝統織物であり、それが自動織機に変化し、その技術を生かして自動車産業につながったという流れがあります。また、もう一つの地場産業である家具製造は、浅間神社造宮の際の名工の技術を伝承したのもでもあります。

したがって、静岡県の伝統工芸品は、その作品が優れているというにとどまらず、静岡の産業のルーツでもあるという側面を持っています。

静岡県郷土工芸品振興会

〒428-0073 静岡市東区五番町3-11

TEL 054-252-4924

<http://www.shizuoka-kongei.jp/>



賤機焼

SHIZUHATA YAKI

賤機焼は、徳川家康よりその名を拜領して以来、静岡という地から成長した民・市民が愛する焼き物として育ってきました。使う人の手に馴染みやすく、あたたかく、やさしく、そして存在感のある器物です。

高価 ¥ 4,800円 3,000円 (税別)



駿河蒔絵

SURUGA MAKIE

蒔絵とは、漆面に漆などを塗り重ねる粉などを蒔き、絵や模様などを描いたものをいいます。伝統技術が今日の感性と結合したことで、身の回りの品にその技術を活かすことができました。駿河蒔絵は、日常生活に本物の感性をお届けしています。

業者 12,000円 (静岡県振興会)



駿河張下駄

SURUGA HARIGETA

張下駄には、多様な表面のソフトな履き心地の良さがあります。

デザインは、下駄に張る縁起木(まきまき)やすず(桐)の彫、風車の魚の文など、意匠を刻いた駒を変えらることで、数限りないパターンションがあります。細かな彫を施した張下駄は、全国的にも非常に珍しいものです。

高価 ¥ 6,000円 5,000円 (送料別)

森山焼

MORIYAMA YAKI

漆や埴おいた器やかな器類を備えた焼き物、赤の表面にこだわりを凝らす得意とするもの、日本の漆料を伝統的にお使いし、染物、漆器、漆、芸術性に富んだ作品。そのいずれも、明らかなる技を受け継ぎ、未来へと伝統を磨いています。

高価 ¥ 8,000円 (静岡振興会)



